

## 全日本ダートトライアル選手権大会 グランプリレポート

本校は、昨年度の同大会で団体優勝を達成しており、また今年度の全関東ダートトライアル選手権大会でも優勝していることから、今大会でも優勝という栄冠を狙い、車輛製作、及び練習に励んでまいりました。しかし、昨年度と違い、ホームコースともいべき丸和オートランド那須ではなく、広島県はテクニクスステージタカタという、砂利の質だけでなく、コースすら分からない完全アウェーの地での戦いとなるため、予断を許さぬ状況でありました。

大会は、全関東ダートトライアル選手権と同様に、一校あたり3人が、午前・午後に1本ずつ走行し、そのベストタイムの合計で順位が決定されます。本校は、先述のとおり、昨年度の同大会で優勝しているため、最終走となりました。



試合会場となったテクニクスステージタカタ

我々は、広島に向かう前に、試合会場であるテクニクスステージタカタ（以下 TS タカタ）の情報を収集しましたが、話に聞いていたものと、実際にみたものでは、大きく異なる所が数多くありました。そのうちの一つが、コース内の高低差です。我々が普段練習している丸和オートランド那須には、激しい上りや下りがありません。一方、TS タカタのそれは、予想以上に激しく、さらに急な上りのコーナーや急な下りのコーナーまでもがありました。このような、イメージとのラグを埋めるべく、我々は試合の4日前と3日前に、練習会を行いました。

しかし、ここで事件が起きてしまいます。最初の練習会で持ってきていた試合車を横転させてしまったのです。幸い試合車を2台持ってきていたので、なんとか大会には出場することができましたが、ショックは計り知れないものでした。また、横転の仕方がさらに我々に衝撃を与えました。我々の EP82 は、壁に触れたわけではなく、いわゆるロールオーバーで横転したのです。丸和にはない横転の仕方に我々は啞然としました。後で分析した結果、コーナーのイン側が逆バンクになっており、アウト側に荷重が片寄った体勢の時に、少し出っ張った石に右側のタイヤがあたり、横転したと判明しました。

横転してから、することは一つしかありません。すぐ近くの整備工場を貸切り、パーツを全てもう一台に移植します。ここで、我々はひとつ大きな発見をします。なんと、横転した試合車のノーマルだと思っていた CPU が、実は社外品の競技用 CPU だったのです。



横転した旧試合車

ポンプのあたりから、大量のエンジンオイルが吹き出していて、さらに第一マウントがもはやマウントとしての機能を完全に失うレベルにまで破壊されていたのです。このマウントでは、これ以上走るのは無理である、と判断し、また昨日お世話になった整備工場へ向かいます。エンジンマウントを外してみると、中身のゴムが本体と完全に分離した第1

マウントと、もはや円形ではなく、卵型に歪んだ第2マウントが発見されました。あいにく、スペアマウントを持ってきていなかったのですが、先日横転した旧試合車から拝借することになり、なにもかもをはぎ取られ、無残な姿になった旧試合車からさらにエンジンマウントをむしり取り、新試合車に装着しました。ウォーターポンプ周りも修理し、ようやく整備が終わったのは、再び夜10時になろうかという時間でした。

その後は大きなトラブルもなく、無事大会本番を迎えることができました。まず、1走目はジムカーナのエースである今村です。セッティングなどがなかなか決まらないなかで、まず1分49秒686を出し、1走目でのトップに立ちます。その後、2走目に入っても今村のタイムを抜く選手が現れないまま、早稲田の2走目、遠藤の番になります。1分54秒216と、少し出遅れたタイムとなり、2走目でのタイムアップが期待されます。そして、各校のエースが集う3走目。まず、全関東戦で全て個人賞を取っている中央大学のエースがさすがの1分49秒373でトップタイムを出します。しかし、すぐに広島大学が1分49秒149を出して、地元の意地を見せます。さらに近畿、広島工業にも好タイムが出て、早稲田のエース早川の出番になります。タイムは1分50秒540となり、7番手でした。午後はさらなるタイムアップが期待されます。結局午前を終わって、今村が5番手、早川が7番手となり、団体でもトップで折り返します。

さて、午後に入り雨が強くなり、路面は悪くなる一方となります。タイムアップを果た

「いままでより速い」、「燃費が異常に悪い」と部内で評判になっていた原因がCPUであったと発覚し、今までより速くなるかもしれないと期待を込めながら、新しい試合車に移植します。

作業は夜10時まで続き、ようやく新試合車が完成しました。そして次の日。またトラブルが我が部を襲うのです。いつものようにボンネットを開けて中を見ると、ウォーター



夜まで整備は続けました

さて、午後に入り雨が強くなり、路面は悪くなる一方となります。タイムアップを果た

せるかどうか、優勝の鍵を握る展開となってきました。まず、今村がまたもや1走者の中では段違いの速さをみせ、路面が悪くなりながらも、1分49秒078とタイムアップを果たします。2走目では遠藤が必死の走行を見せますが、ミスが散見され、タイムは1分54秒624とタイムダウンをしてしまいます。そして勝負の3走目です。午前に良いタイムを出した選手はそろってタイムアップしていきます。特に中央大学のエースは、1



パワー全開で攻める早川

分48秒台のトップタイムを叩き出します。その後も、各校がタイムアップしていく中、早稲田のエース早川の番になりました。3秒近いタイムアップをしなければ優勝できないということで、ブーストを最大にセットして車を送り出します。しかし、これが逆に仇となり、激しいパワーにエース早川といえども振り回され、1分51秒215とタイムダウンをしてしまい、早稲田は団体優勝を逃し、団体5位に終わりました。また、今村が個人4位

となりました。

今回の大会では残念ながら優勝できませんでしたが、収穫も多くありましたので、次回に生かせるよう、しっかり反省をし、来年の同大会では必ずや優勝できるよう、部員一丸となって戦っていきたいと思います。今後とも早稲田大学自動車部をよろしく願いいたします。